



### CASE 3

#### 学校を超える 教員連携を ひろげる先生

のべさわ・えりこ／進路指導担当。教員歴22年。中学2年のときに、生徒と一人として対峙してくれる先生に出会い教員を目指す。1994年、中学校で教員となる。1995年から山形県立谷地高校、2002年から楯岡高校、2009年より現職。高校教員1年めから進路指導担当となり、以後、ほとんどの期間で進路指導に携わり続ける。

#### 「進路女子会」など、他校の教員同士がつながる さまざまな会を組織している

延沢恵理子先生

新庄北高校(山形・県立)

もっと成長したいと思うのは  
「本気の教師」に出会ってきただから

延沢先生が自ら発起人になって立ち上げた、他校の教員との勉強会が現在3つある。「山形県高等学校国語学習指導改善研究会(以下、Aチーム)」、「全国女性進路指導研究会(以下、進路女子会)」、「山形若手・中堅進路指導研究会」だ。国語科の教壇に立ち、進路指導課として日々生徒の進路相談にのり、二児の母でもある多忙な中で、学ぶことになぜここまで熱心になれるのだろう。「基本は自分自身の成長のためです。今よりもっと、国語や進路指導

で生徒の求めることに応えられる教員になりたいのです」

大学時代、苦学生でバイトばかりだった延沢先生に「どうしても困ったら援助する」と言ってくれた教授。「教師とは、どんな生徒の未来の可能性にも懸ける仕事だ」と教えられた。また、教師1年めに卒論のテーマだった大村はま先生の勉強会に誘ってくれた先輩教師、高校教員2年めで校内活性化委員会で活動をともしした先輩たち。その後も数々の素晴らしい先輩に刺激を受けたいくつもの出会いがきっかけとなったそうだ。

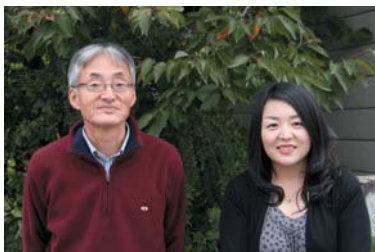
「教科力、教員としての覚悟など、本気で教師をしているすごい先生方と出会い、もっと教科力もつけて成長しなければと駆り立てられました」

そして1998年に最初に作った研究会が、県の教育センター指導主事だった阿部和久先生を中心とした「Aチーム」だ。「国語科の教員同士で、意見交換や勉強会を行う場です。阿部先生

と私がいればとりあえずやるという緩いスタンスで、年1回程度集まって、細く長く、現在は作問研究の形で続けています」

出会った先輩方からもらった  
元気を若い人に返していきたい

進路指導を20年近く続けるなかで、延沢先生が2012年に立ち上げたのが「進路女子会」だ。「東日本大震災をきっかけに、東北の教育現場に危機を感じ、自分に何ができるかを考えました。ある勉強会で秋田の若い



↑「Aチーム」の中心・阿部和久先生と。阿部先生からは教科のことだけでなく、人には「役割責任」があることを教えられたそう。



←「進路女子会」のメンバーと。進路指導担当としての共有だけでなく、美容の話に花が咲くことも。

学びたいと思っている人を集める。  
そこでの出会いが、自分の  
元気となり、宝になります！

## 進路指導は18歳の人生にガチで向き合える仕事

高校教員となってから、ほぼずっと進路に携わっている延沢先生。進路の仕事の醍醐味は、生徒が成長した瞬間に立ち会えることだという。「進路選択は生徒が自分の生き方を選ぶ瞬間。ここで本気で頑張らなければ、本気の頑張りを経験しないままその後の人生を歩むことになります。だから、目標とした高みを目指すため、できるだけ苦労させて、悩ませて、本気を引き出します」。力を尽くして頑張ったと自分で思えば、志望の進路先に落ちたとしても「やるだけやった」と生徒自身が思えるからだ。「先輩に言われた『落ちて感謝される指導』が理想です」



生徒の本気を引き出すために、延沢先生も本気で対峙。厳しい言葉をかけるからこそ、「大丈夫」の言葉には自信を感じられると生徒は言う。



↑延沢先生が何度も読み返した愛読書が、大村はま先生の「教えるということ」。大村先生との勉強会に参加できたことも、大きな刺激となったそうだ。

女性の先生の悩み相談を受けていて気づきました。進路指導課には女性の先輩が少なく、男性の先生が飲みながら先輩に学ぶような機会が女性にはあまりないのです。そこで、女性の進路教員ならではの悩みや指導のアイデアを共有できる場を作れないかと考えたのです」

進路の先生を幅広く知る知人に「女子会を作りたい」と相談すると

すぐに賛同され、理事となる先生方を紹介され発足に至った。気軽かつまじめな会にするために、会則も作った。

仕事をするうえで男女の違いはないが、コミュニケーションやリーダーシップの取り方に男女の違いが出る。進路指導をどう進めているか、どうしたいかの共有だけでなく、女性としての生き方や働き方を相談できる場になっている。

「まじめなテーマのときもあります。若い人が気楽に相談できる場が理想です。他の研究会も含めて会の魅力は、参加している先生方の魅力です。学びたいと思っている人々とのかわりは私の宝です。出会った方たちからいただいたパワーを、若い人や生徒に返していきたいと思っています」

## 生徒は、新しい世界を作る人材。それを育てるのが教員。学ぶ意義を生徒に意識させたい

### 自慢の生徒たち一人ひとりの活動が表に出る取り組みを

西大和学園は、東大・京大合格者数で10年以上全国トップ5にランキングする、学力で急成長している学校だ。宮北先生は現在、高校2年の学年主任を務める。

「数字がひとり歩きすることには違和感があり、生徒一人ひとりの活動が表に出るようなことをしたいと、ずっと考えていました」

宮北先生が見せたい生徒たちの活動とはどんなことなのだろうか。

「当校は中高一貫校で、中学のころからは生徒たちに『何事も受身ではなく主体的に動こう』と言いつつ、過剰にやってきました。いくら行事を主体的にやっても、日常生活が主体的でないという意味がない。高学年では、自主的に放課後に勉強会などを企画したり、先生方を巻き込んで

### CASE 4

#### 生徒の主体性と自己肯定感を徹底的に育む先生

みやきた・じゅんこう / 学年部長、進路指導部長、生徒指導部長。教員歴20年。小学校4年生のときに、担任の先生が作ったバレーボール部に所属し、どんどん強くなっていく喜びと、チームの一体感を教えてくれたことに影響を受け教員を目指す。大学卒業後、1996年に西大和学園カリフォルニア校に着任。1999年より母校である西大和学園に着任。

「学校がよくなる提案」を募集し、生徒主体で実行に移させた

宮北純宏先生

西大和学園中学・高校(奈良県・私立)



↑「17歳のじぶん・未来・デザイン」は、生徒が学ぶ意義を考えながら、自らのキャリアデザインをする。



ミを行ったりしています」  
**学年部の教育理念を作ること**  
**基本に立ち返り団結できる**

主体性育成のための活動のひとつが、中学3年次に行った「学校がよくなる提案募集」だ。

「中高一貫校のため、高校進学の際にスイッチが入りにくいことが課題でした。そこで、生徒たちが自分ごととして捉えられるミッションを与えました。実現できたときに生徒たちの自己肯定感が相当高まると考えました」

結果、生徒たちから多数の提案があり、「SNSを活用した学習効率向上のシステムをサジェストする」「編入生の不安をなくすことのできるようなアイデアをイベントする」などの7つの提案が実行された。

特にSNSの活用は、携帯電話禁止の同校においてはハードルの高い内容だったにもかかわらず、生徒自らICT委員会を立ち上げ、いかに学習効果があがるかを教員たちを説得してみせた。実際の導入にあたっては、iPadの導入など、教員側が動く必要もあった。校長を始め猛反対があり心が折れそうになったこともあったそうだ。そんなときに宮北先生の力になったのが学年団の団結だ。先生の学年では学校理念に加えて、「確かな人間性を育む」という学年

部の教育理念を掲げている。壁にぶつかったときはこの理念に立ち返れば、進むべき道が見えてくるという。

「われわれの共通の想いは生徒の自己実現だけでなく、「社会をより良くするための人材」を育てるのが教員の役目だということ。生徒の多くは想像をはるかに超えて成長していきます。そんな生徒とかがわかることでできてワクワクしています」

宮北先生は生徒だけでなく、学年部長として若手教員も育てている。「どんな活動も「宮北だからでき

た」ではダメ。ビジョンを共有し、タネをまいて動き出したら、私は後ろから背中を押すだけ。自分たちでやったという達成感がないと成長できないからです」

外部の社会人とプログラムを企画するなど、さまざまな活動を絶えず間なく続けている宮北先生の現在の取り組みが「17歳のじぶん・未来・デザイン」だ。将来の人生をイメージしたうえで、「何のために学ぶのか」を生徒に明文化させる授業だ。

「生徒は心に一旦火がつけば一気に動き出します。教員は生徒の火を燃やし続ける存在だと思います」



◀現在の高校2学年が中学3年次に行った「学校がよくなる提案募集」では、夏休みに代表者が合宿行って提案をブラッシュアップさせた。

▶「SNSを活用した学習効率向上のシステム」を提案した生徒たちが自らICT委員会を立ち上げ、教員に向けて意義と必要性をプレゼンした。



PLUS ONE

宮北先生には今の教育界をかきまわして一新させてほしい

「現在の常識が数年後には全く通じない激動の時代を、生徒たちは生きています。学校も同じで、本当の教育をしている学校だけが生き残ると思っています。それが“主体的に動ける生徒”を育成できる学校です。生徒たちがSNSの導入を提案してきたとき、私は宮北先生をばろくそに怒りましたが、本気度確かめたかったから。生徒自身が『成績を上げるため』とわれわれが反対できない説得をしました。宮北先生には教育界をかき回してほしい。世の中が激変しているのに、教育界だけ変わらないことが異常。これからも無茶な提案を期待しています」



西大和学園高校  
 校長  
 福井士郎先生  
 1986年に西大和学園に着任、2014年より現職。宮北先生を「自分の若いときそのまま」と語る。

